

# 基金だより

第3号（平成21年9月25日発行）



## 学 長 か ら

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今、教育現場では、いじめ、不登校、学力低下等様々な課題が山積みになっています。多くの教員を送り出している本学では、これらの課題に対して機を逸することなく取り組みを強化し、その成果を地域と学校に還元することが大切であると考えます。また、現職教員の資質向上に向けては、本学では既存の大学院を充実させると共に、昨年4月から現職教員大学院生を中心とする高度教職実践専攻（教職大学院）を開設し、これからの学校でのスクールリーダの育成を目指しています。



さらに、人間地域科学・芸術・スポーツに関する専門的知識・技能を持ち、幅広い教養を備え、地域に根ざした社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

この目的達成のためには、しっかりとした教育体制や教育環境の整備充実はもとより、学生自身の自発的で積極的な学習への取り組み奨励・支援し、学生の意欲を喚起する環境作りが必要であると考え、本学では、2006年12月に北海道教育大学教育支援基金事業を設立しました。

これらの事業目的を達成するため、いくつかの企業に寄付のお願いに伺いましたが、その趣旨をご理解くださり温かい励ましとご協力をいただくとともに、皆様方の期待の大きさを感じました。札幌商工会議所には「どさんこ創生塾」を立ち上げていただき、その会費と事業の収益全学を教育支援基金に繰り入れていただいています。

このように、北海道の多くの方々、企業からご協力とご支援をいただいていますこと心から感謝申し上げます。

本学は「人が人を育てる北海道教育大学」を合い言葉に、地域人材の養成に努めて参りますので、今後ともご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

# 平成 20 年度 事業 報告

平成 20 年度事業として以下のとおり実施しました。

## 人材育成事業

- ① 大学院での研修に励む現職教員への奨学金支給  
19名（平成19年度奨学生） 1人40万円（2年分）  
45名（平成20年度奨学生） 1人10万円  
計1,210万円を支給
- ② 優秀な学部学生への奨学金支給  
30名に対し、1人10万円 計300万円を支給



札幌キャンパス



函館キャンパス



旭川キャンパス



釧路キャンパス



岩見沢キャンパス

## 基金の収支状況

平成21年3月までのご寄付の状況、支出の状況は次のとおりです。

(単位：円)

収 入		支 出	
個人からの寄付金	18,366,000	人材育成事業（奨学金支給）	21,700,000
法人等からの寄付金	18,963,000	現代的教育課題への研究支援事業	306,188
「どさんこ創生塾」からの寄付金	4,900,000	その他（口座振替手数料）	38,330
		合 計	22,044,518
合 計	42,229,000	寄付金残額	20,184,482

## 奨学金受給者数

平成19年度

(単位：人)

修 学 校	大 学 院 生		学 部 学 生	計
	現職教員	その他		
札幌校	7		6	13
函館校	3		6	9
旭川校	5		6	11
釧路校	3		6	9
岩見沢校			6	6
計	18		30	48

平成20年度

(単位：人)

修 学 校	大 学 院 生		学 部 学 生	計
	現職教員	その他		
札幌校	32		6	38
函館校	4		6	10
旭川校	15		6	21
釧路校	13		6	19
岩見沢校			6	6
計	64		30	94

## 寄附者の紹介

北海道教育大学教育支援基金は、平成18年12月に創設以来、これまで多くの方々にご協力をいただき、学部学生、大学院生への支援をはじめ、いじめ、不登校などの現代的教育課題に関する研究への支援等を行っております。

ここに、そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、ご同意をいただいている皆様のご芳名をご紹介します。

また、高額のご寄付をいただきました方には、事務局正面玄関に設置しております、教育支援基金寄付者の銘板にご芳名を掲載させていただいております。皆様には、引き続き本基金にご支援くださいますようお願い申し上げます。

寄附者ご芳名（お申込み順、敬称略）平成21年8月31日現在

※ ご芳名の掲載を希望されない方は、掲載を割愛させていただきます。

（企業、法人、団体等）

財団法人放送大学教育振興会 財団法人日本国際協力センター 株式会社北洋銀行 株式会社札幌銀行 池田煖房工業株式会社 北海道電力株式会社 株式会社三八 上光証券株式会社 手稲ロータリークラブ 札幌ロータリークラブ 大輝印刷株式会社 交洋不動産株式会社 北海電気工事株式会社 株式会社KDS札幌支社 北海道教育大学夕陽会 中山食品工業株式会社 財団法人札幌市中小企業共済センター 株式会社ホクシンラマナプロジェクト 札幌映像プロダクション 株式会社プラスエージェンシー 北幹警備保障株式会社 北海道ビルサービス株式会社 北洋システム開発株式会社 今井金商株式会社 株式会社シズナイロゴス 株式会社昭和総業 ダイコク交通株式会社 ルンベル旭川 札幌商工会議所理事・部長職一同 株式会社みんなのことは舎 株式会社札幌ドーム 富士火災海上保険株式会社 山藤三陽印刷株式会社 株式会社乃村工芸社北海道支店 株式会社札幌第一興産 医療法人社団カレスサッポロL S I 札幌クリニック 社団法人北海道未来総合研究所 株式会社クラーク総研 株式会社にしりん 証券会員制法人札幌証券取引所 株式会社きのとや ストレンジャー21 株式会社ヤマシタ 株式会社デジック 株式会社須田製版 札幌商工会議所女性会 札幌商工会議所 株式会社世起 北海道火災共済協同組合 札幌南ロータリークラブ 丸果札幌青果株式会社 株式会社アミノアップ化学 株式会社ピーアールセンター 株式会社モーニング 株式会社プリプレス・センター 株式会社シービーエス札幌営業所 TKデザイン 株式会社エスコムプレーン 東京海上日動火災保険株式会社 行政書士東方事務所 株式会社コナミスポーツ&ライフ アド・フレッシュ有限会社 株式会社東京商工リサーチ北海道支社 有限会社秋田デザインイズム 有限会社エスプリング 株式会社恵和ビジネス 泰和石油株式会社 株式会社桐光クリエイティブ 株式会社テレビ北海道 佐藤印刷株式会社 株式会社ニトリ（ニトリ北海道応援基金） 岩田地崎建設株式会社 旭川ロータリークラブ 株式会社札幌振興公社 エア・ウォーター・サービス株式会社 社団法人札幌観光協会 正文舎印刷株式会社 エア・ウォーター株式会社 北海道教育大学青陵会 株式会社アインファーマシーズ 株式会社北海道新聞社 サザエ食品株式会社 北海道旅客鉄道株式会社 社団法人北師教育文化振興会 小樽信用金庫

(個人)

齊藤 健司	三浦 秀雄	村山 紀昭	佐々木 茂	岡部 三男	高向 巖
今 尚之	前田 眞	谷本 一之	奥野 亮輔	荒島真一郎	藤根 信章
綾部 史夫	野村 公	中谷 弘	岡本 靖正	外崎 與之	大塚 達也
田村 光規	十亀 昭雄	伊藤 千秋	上條 雄也	片岡 寛治	衣川 實
本間 謙二	望月 正男	長谷川 致	東海林明雄	斎藤 孝	瀧波 武
長谷川 工	原田 行造	小原 孜郎	藤本 誠造	小檜山 博	佐藤 孝夫
下元 利之	渡部 英昭	藤波 信成	竹田 勝	伊藤 裕三	吉田 昭穂
祖母井里重子	伊藤 潮	大黒 靜治	鈴木 明彦	中原 勇夫	星野 良
諸橋 輝雄	東 尚巳	伊藤 則博	橋本 美則	新里 光代	堀川 守正
磯脇 和平	安田 侃	川江 実	笹原 義雄	池田 保夫	八町 憲一
玉村喜代治	湊 公夫	石井 久	吉田 弘夫	大塚 哲郎	中田 秀彦
福田 薫	山崎 節雄	松本 禮一	芳賀 卓	吉沼 一	亀畑 義彦
鈴木 正徳	大平 幸紀	関口 裕昭	谷口 賢司	敦賀 徹	弘中健一郎
南谷 誠	山口 栄三	山口 洋志	笹谷 春美	田島 與久	馬場 俊臣
本堂 知彦	水野 政勝	吉原 英夫	瓜生 淳一	大坂 治	長田 友紀
鹿嶋 利幸	佐々木 馨	佐藤 直人	新開谷 央	杉浦 清志	曾我部和明
高木 重俊	高田 康作	竹鼻 洋文	舘脇 武光	出村 克弘	徳永 好治
夏井 邦男	林 義明	福田 翼	藤田 雅史	三澤 壽喜	三橋 功一
吉田 繁延	若松 泰生	海老名 尚	片山 晴夫	佐々木久視	蛇穴 治夫
立花 捨美	宮家 康浩	村田 芳久	山本 光朗	吉田 正生	渡辺 由光
浅井 良之	小松 丈晃	佐々木 巽	清野 隆	皆川 治恵	村瀬 千櫻
高橋 勇輔	太田 晶久	村山 登	岡本 次郎	小黒 貢	海藤 晃弘
久綱 忠夫	瀬川 秀良	上岡 宏	横谷 英次	鈴木 淳一	和田 謙二
山下 克彦	山田 カヨ	宮腰 秀弘	石尾 直博	植木 克美	後藤 守
庄井 良信	馬場 俊臣	増淵 哲子	山本 勇一	鏡谷 智靖	遠藤 芳信
大坪 嘉昭	山崎 正吉	玉井 康之	田丸 典彦	青木 英昭	尾関 俊浩
古川 昇	媚山 敏文	新田三智也	長坂 好男	山地 博之	尾崎富美子
奈良 一三	大瀬 紘興	小島 三司	沼田 元一	林 敬二	前岡 和雄
辻井 義昭	勝俣 美治	橋 ヒサ子	スガワラ トオル	野川 潔	富田 勤
浅木 洋祐	河 鍊洙	相馬 一彦	櫻井 兼市	鬼丸 吉弘	五十嵐雅浩
久保 良宏	會澤 義雄	伊藤 功俊	岡崎 由夫	伊藤 隆介	落合 清治
澤出 宗利	橋場美紀雄	宮崎 素	山田 正二	吉見 孝夫	小平 征雄
後藤 嘉也	坂本 紀子	野呂 佳生	藤井 廣美	松浦 俊彦	宮田 省一
山本 道隆	阿部 修	安藤 豊	芝木 邦也	須田 康之	氷見山幸夫
森田 寛	八重櫻良二	鎌田 浩子	村上 知子	吉崎 祥司	石山 洋一
今野 孝明	青木 満里	大内 定	大久保和義	神田 房行	奥田 亨
岩船 寛	加藤 俊孝	尾形 猛	横山 充	金子 俊之	青山 敏彦
新保紅実子	蛭田 眞一	眞田 雄三	佐藤 道之	高橋 伸幸	芳根 和子
鎌塚 宗一	阿部 哲夫	吉光寺勝己	久保田浩文	小林 一博	佐藤 毅
花輪 大輔	水上 俊司	村瀬 清史	室山 俊美	森下 智之	東海林耕太郎、
高橋 庸哉	流田 雅己	本庄 康伸	吉村 功	川上 隆幸	平野 雅宣
戸田須恵子	小林 宏明	奈良 盛	臼井 博	大久保康德	大津 和子
川畠 利春	佐藤 吉文	菅股 庄二	田中 昌弥	林崎 誠司	上山 恭男
田中 和久	浅川 哲弥	荒岡 良明	内島 貞雄	幸谷 晃	斎藤 祥子
酒井 義信	佐藤 隆	芝木美沙子	南部 正人	古川 宇一	横尾 實

伊藤 俊彦	岡谷 貴志	佐野比呂己	寺山 秀人	芳賀 敦	八木 利夫
三浦 弘	菊嶋 明廣	柴山弥壽男	坂口 勉	清野 きみ	押手 敬
舟越 芳男	鈴木 博	笠井 稔雄	藤井 英嘉	向井 慎一	佐竹 道盛
渡部 俊夫	米谷 元捷	中村 秀子	福井 昌樹	石井 仁	瀬川 良明
穴水 光輝	中西 信行	中村 公子	柴田 敬祥	辻川 智宏	森島 克久
板津 邦夫	寺中 哲二	平 一弘	佐々木義之	横山 裕充	林 政孝
小林 香織	土居 慎也	照井 貴幸	齊藤 敦司	工藤 晋子	濱淵 雅樹
大月さゆり	田崎 博久	中田絵理奈	野田 哲史	大野 孝喜	亀岡 朗子
小野 牧子	山岸 敏彦	西川 昌慶	小林 孝三	福山恵太郎	門脇 正俊
信太 順子	齋藤 光夫	中村 達也	西山 真	佐々木良一	荒田 一志
木塚 雅貴	伊藤 仙一	柿崎 香	道下 正人	眞田 雄三	夏井 春喜
泉 みち子	西木 光	紫藤 正行	和田知賀子	山藤 敬一	佐藤 孝郎
杉本 宏	日森 俊	佛具 克明	成澤 功	今井 國雄	北山 雅士
広井 智紀	前田 賢能	中村 真規	唐神美和子	稲見 卓人	佐藤 仁大
岸田 壮司	佐藤 孝	穴木沢 潔	佐伯 雄司	藤原 正士	長井 伸樹
東方 豊松	黒田 洋示	川野 孝志	佐藤 伸喜	池田 満	秋田 興二
田井 中	吉田 聡子	藤井 実	佐藤 泰光	布施 宣善	矢部 和彦
門脇 隆史	辻 満	大庭 英敏	滝川 幹	高向 善信	稲上 保彦
木村美太郎	岩田 圭剛	齊藤 彰	小笠原 薫	村上 力夫	山上真知子
網 規行	吉田 宏	中田美知子	小泉 信隆	福井 雅英	大内 俊
柏野 吉貞	城後 豊	山口 文章	岡村 聰	嶋崎 一美	戸田 弘二
浅利 祐一	今泉 博	関谷 祐里	阿部 博光	神林 勲	佐々木けいし
和田 恵治	廣畑 圭介	尾崎 文彦	石井 紘子	戸田 浩幸	石井 純二
中山 雅文	野村 潤	小林 禎三	守田由美子	伊藤 美紀	小川 東洲
小川 邦彦	奥田 知靖	前田 克彦	佐藤 昌彦	瀬山 幸二	戸田 安彦
鎌田 力					

## 奨 学 金 授 与 者 か ら

### — 奨学金を授与されて —

#### 【学部学生】

○札幌校 教員養成課程 3年 菊嶋 瑞恵

この度は、奨学金へのご寄付をいただき、誠にありがとうございました。私の夢は、教師となり子どもの成長にかかわっていくことです。仲間と考えを交流して学び合うことの楽しさ、自分の可能性に挑戦することの大切さなどを、子どもたちに伝えたいと考えております。自分自身の課題に一つ一つ向き合い、そして将来、子どもたちのために全力を尽くす存在となることで、皆様からのご支援にお応えしていく所存です。強い前向きな気持ちをもつことができました。心よりお礼申し上げます。

○札幌校 教員養成課程 3年 阿部 智恵

この度は北海道教育大学教育支援基金にご寄付くださりましてありがとうございます。そして、私に奨学金を授与してくださいましたこと、心より御礼申し上げます。大学に入学して以来、学



生の本分である勉学に励んでいたことを、このような形で評価していただき、大変うれしく思います。また、多くの方々の期待の中で学んでいることを改めて実感し、今後もこれまで以上に努力し続けてまいります。今後とも温かいご支援、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

○函館校 人間地域科学課程 3年 小坂 麻綾

不況の影響で、授業料の免除を申請する大学生や進学そのものを諦めようかと悩む高校生が増えているという記事を、数日前に新聞で読みました。このような状況下で教育のために寄付して下さる方がいることは、学生にとって大きな支えになると思います。私は、家が母子家庭ということもあり金銭面に不安があったので、奨学金を授与していただきとても助かりました。寄付して下さった方々に感謝し、自分をより高めていけるよう、これからも勉学に励んでいきたいと思えます。

○函館校 人間地域科学課程 4年 嶋 宏美

昨年、北海道教育大学教育支援基金から奨学金を授与致しました。奨学金の授与のお話を頂いたときは、正直選ばれたことに驚きを隠せませんでした。ですが、授与したことで前にも増して学業に励んでいこうと気を入れ直すことができました。

大学生活も残り半期程ではありますが、これからも様々なことを吸収していきたいと思っております。

最後にご寄付いただいた皆様に心から感謝いたします。誠に有難うございました。

○旭川校 教員養成課程 4年 穴戸 弥生

私は、昨年北海道教育大学教育支援基金から奨学金を受けました。私は、一報が来るまで教育支援基金の存在を知らず、最初お話を聞いた時はとても驚きました。しかし、この奨学金の意味を知り、自分の学業が評価されたことを嬉しく思うと同時に、ご寄附をいただいた方に感謝の気持ちを持ちました。

私はこれから大学院に進学し、特別支援教育についてより深く学ぼうと考えています。今回ご支援していただいたことを忘れずに、これからも一生懸命勉学に励みます。本当にありがとうございました。

○旭川校 学校教育教員養成課程（北海道教育大学大学院在学）造 田 聖明

この度は北海道教育大学教育支援基金より奨学金を授与していただき、支援事業に御賛同くださった皆様、支援事業の関係者の方々に厚く御礼申し上げます。このような機会に恵まれた事を大変嬉しく思い、また日頃の努力の成果が形となって現れた事を大変光栄に思っております。今後もまた支えてくださる皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、良き教師を目指して日々研究と修養に努めていく決意です。

○釧路校 教員養成課程 3年 東谷 美優

この度は、奨学金を授与していただき、ありがとうございます。「今、自分にできる最大限を」と、一心に勉学や様々な活動に取り組んできましたが、それらをこの様な形で評価していただけたことは、思ってもみませんでした。奨学金授与の通知を受けた時、あまりにも突然のことで声を大にして喜んでしまったことを覚えています。私を評価し、応援して下さいます皆様への感謝を己の姿で示せますよう、今後とも精進していきたいと思えます。変わらぬご支援、ご指導をどうぞよろしくお願いいたします。



○釧路校 地域環境教育課程（日本郵便北海道深川支店勤務）矢野 智 隆

この度は奨学金を授与させていただき誠にありがとうございました。学生生活では勉学などに精一杯打ち込み、とても充実した期間を過ごすことができ、さらに成績優秀者として評価していただけたので、頑張ってきて良かったなと実感しました。

私は現在、社会の一員として民間企業にて働いております。社会人としてまだ未熟なため、迷惑をかけている場面が多いのですが、一生懸命に働いて社会に貢献できるよう努力していきます。本当にありがとうございました。

○岩見沢校 芸術課程 4年 森 脇 ゆかり

この度は北海道教育大学教育支援基金より奨学金をいただき、ありがとうございました。このような形で評価をいただいたこと、驚きとともに大変嬉しく思います。大学では、素晴らしい出会いとチャンスに恵まれ、多くのことを得ることができました。ここでの学びと日々の感謝を忘れず、私なりにお返しできるよう、これからも精進していきたいと思っております。

○岩見沢校 芸術課程 4年 佐藤 有 希

この度は奨学金を授与して頂きありがとうございます。当初は対象者に選ばれたことに驚きましたが、大変光栄に思います。勉学や制作への大きな励みとなりました。大学では広い視野を養うことを目標に、専攻の授業のみならず様々な授業を受講してきました。それらを制作に反映させていけるよう努力します。奨学金はパソコンの購入に使わせて頂き研究に役立てています。

【大学院生（現職教員）】

○学校教育専攻（札幌・岩見沢校）広尾町立広尾第二小学校勤務 小田 浩平

この度は、北海道教育大学教育支援基金の奨学金をいただく機会を得ることになり、たいへんうれしく思っております。ご寄付いただいた方々、支援事業の関係者の方々に厚く御礼申し上げます。私は、道教委の長期研修派遣で大学院に通わせていただいておりますが、勤務校が札幌からは遠隔地のため経済的な面も含めていろいろと不安もありましたが、今回の奨学金制度などさまざまな手厚いご支援のおかげで、研修に専念することができております。今年度は2年目となり勤務校と大学院との両立が始まりましたが、今回の貴重な経験を生かして、北海道の子どもたちの教育のために自分にできることを精一杯やって、少しでも貢献させていただければと思っております。この度は本当にありがとうございました。

○教科教育専攻（函館校）函館市立桔梗中学校勤務 櫛 田 朝 子

教員になって十年以上が経ち、現場で活かせる力をもっと付けたいと大学院への進学を希望しました。希望が叶い、充実した毎日を送っていたときに、北海道教育大学教育支援基金がいただけるとの連絡を受けました。大変驚いたのと同時に、感謝の気持ちでいっぱいになりました。この感謝の気持ちを忘れずに、今後も北海道の子どもたちのために全力を尽くしたいと思っております。本当にありがとうございました。

○高度教職実践専攻（旭川校）旭川市立旭川第二小学校勤務 八 柳 学

教員生活も半ばを迎え、今までの実践を振り返り整理する意味でも大学院で学んで良かったと強く感じています。しかし実際、働きながらの学生生活は想像以上に厳しく、挫折しそうになる

ことも多々ありましたが、日々励ましてくれる同僚や家族等、多くの人たちの支えによってなんとか2年目を迎えることができました。さらにこの度、奨学金という金銭面からの支えをいただきましたことに心より感謝申し上げます。ここで得られた成果を教員として皆様へ還元できるよう頑張っ て勉学に励みたいと思っております。本当にありがとうございました。

○高度教職実践専攻（旭川校）旭川市立向陵小学校勤務 山 川 美千代

教職員大学入学以降、教育支援基金に係る奨学金の名に恥じぬよう、及ばずながら学業に全力を尽くしてまいりました。奨学金を受けさせていただき、参考文献の購入など有意義で実り多い教職大学院での学びを過ごしています。こうしてつつがなく希望の学業に励み、向上を求めていくことができるのも、貴校のご支援のお陰と、感謝の気持ちでおります。経済不況と言われる中、支えて下さったご恩と感謝を忘れず、より一層精進して参りたいと思います。

○高度教職実践専攻（釧路校）釧路市立鶴野小学校勤務 大 野 昌 宏

この度は、教育支援基金を授与していただきありがとうございました。学校に勤務しながら学んでいる現職の教員にとって大きな励みになります。働きながら学ぶことは物理的、精神的に難しい部分もありますが、大変だからこそ意義があると痛感しております。

この教職大学院で、私が心がけていることは、先生方のお話を漫然と聞くだけではなく、講義を受けた先生の書籍を図書館で借りたり、授業の中で紹介された本を購入して読むなどの研修を通して、自分自身の課題や主題を深めていくことです。深めた課題や子どもたちを前に実践した事例を持ち寄って討議（省察）をする機会があることも、研修を進める上で役立っております。

このように働きながら学ぶ機会を得ることができたことを光栄に思うと同時に、それを支えていただいている方々に対して感謝の念を忘れず、これからの研修に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。

○学校臨床心理専攻（釧路校）釧路市立音別小学校勤務 長谷川 郁 子

奨学金をいただけるとは夢にも思っていなかったもので、嬉しさと共に、身が引き締まる思いでおります。ご寄付いただいた皆様のご厚情に感謝いたします。小学校、中学校の現場で30年過ごし、「言葉にできずにモヤモヤ考えていた実感」が、大学院での学びを通し、先生達のお力をお借りしながら「言語化」できたり、理論と実際が少しずつリンクしていくことに驚きと喜びを感じています。学びの日々に感謝すると共に、学んだことを少しでも多く職場や子どもたちに環流していきたいと思っております。

## ご 連 絡

### ◆ 寄付者のお名前の掲載

ご寄付をいただいた方々のご協力に感謝し、本学のホームページにご芳名を掲載させていただきます。

※ご芳名の掲載を希望されない方は、その旨ご連絡下さいますようお願いいたします。

なお、ご寄付をいただいた際に大学広報誌へのご芳名の掲載を希望されなかった方については、本学のホームページへの掲載はいたしません。

### ◆ 寄付者銘板

団体10万円以上、個人5万円以上のご寄付をいただいた方々のご芳名を、「北海道教育大学教育支援基金寄付者銘板」に刻み、末永く顕彰させていただきます。

※ご芳名の掲載を希望されない方は、その旨ご連絡下さいますようお願いいたします。

なお、ご寄付をいただいた際に大学広報誌へのご芳名の掲載を希望されなかった方については、「寄附者銘板」への掲載はいたしません。



構内花壇のチューリップ

#### 【問い合わせ先】

北海道教育大学教育支援基金事業実施部  
〒002-8501 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号  
北海道教育大学総務部総務課  
教育支援基金事務室  
TEL:011-778-0206 FAX:011-778-0631  
E-mail:kikin@sap.hokkyodai.ac.jp  
<http://www.hokkyodai.ac.jp/>